

佐賀県キャンプ協会 取り組みのその後

佐賀県キャンプ協会 吉松誠一郎

自己紹介

- 吉松 誠一郎（よしまつ・せいいちろう）
- 1962年9月生まれ 59歳
- 勤務先は佐賀新聞社営業局 → 10月から販売局
- 佐賀県キャンプ協会理事

※1994年発足当時から。2018年6月～2020年3月まで理事長

※2020年4月に大阪支社に転勤も、コロナ拡大に伴い、1年で帰還命令…！

※2020年度からビジョン委員を拝命。かつては情報サービス委員、基準整備委員も

※佐賀新聞社では、おもに広告営業に携わる

東京支社8年、福岡支社2年、大阪支社1年にも勤務

2019年6月、全国事務局担当者会議のプレゼンでは…



- ・ 日本キャンプ協会の会員数が減少し、会費収入が減少
- ・ 事務局員にしわ寄せが…？
- ・ 会費以外の新たな収入源は？



都道府県や市町村、国の事業予算獲得へ

- ・ 電通＋地方新聞社＋日本キャンプ協会の協業を模索し、
電通に対して、国土交通省へ「防災キャンプ」の提案を呼びかけ

「キャンプ」に追い風 県や市町村の委託事業は増加傾向！

- 県や市町村で、キャンプに関わる委託事業が多数公示されています。佐賀県では、2018年度にキャンプに関連した業務委託企画コンペ（プロポーザル）が3件実施されています…

- ①佐賀さいこう!自然塾 4,303千円（県営キャンプ場の利用促進 有明海再生・自然環境課）
- ②「島さんぽ」事業 9,969千円（離島振興 さが創生推進課地域振興担当）
- ③吉野ヶ里歴史公園プロモーション 9,500千円（誘客促進 都市計画課）

①佐賀さいこう!自然塾 4,303千円（有明海再生・自然環境課 受託先：佐賀広告センター）

目的：自然体験の経験が少ない保護者が、自発的に子どもを自然に連れ出すことができるように支援し、子どもの自然体験活動の機会増を目指すとともに、自然環境への関心を高める（抜粋）。

「佐賀さいこう!自然塾」に係る企画・運営業務委託企画コンペ実施要領

キッズチャレンジ!自然体験活動推進事業に係る「佐賀さいこう!自然塾」(以下「自然塾」という)開催業務を受託する事業者を選定する企画コンペを実施するに当たり、必要な事項を次のとおり定める。

1 目的

「佐賀さいこう!自然塾」企画・運営業務を委託するに当たり、提案者の実施能力、提出された提案内容を総合的に判断することにより受託者を決定するための企画提案を募集する。

2 業務内容

(1) 委託業務名

「佐賀さいこう!自然塾」に係る企画・運営業務委託

(2) 委託内容及び委託期間

別添「佐賀さいこう!自然塾」に係る企画・運営業務委託仕様書のとおり

3 参加要件

企画コンペに参加できる者は、次の全てを満たす民間企業、NPO 法人、その他の法人又は法人以外の団体であって委託事業を的確に遂行するに足る能力を有するものとする。

- (1) 本業務の実施に当たって、県内に事務所を有し、緊急の打合せ等が必要な時に、迅速に対応できること。

佐賀さいこう!自然塾に係る企画・運営業務委託仕様書

1 目的

自然体験の経験が少ない保護者について、自発的に子どもを自然に連れ出すことができるように支援するとともに、子どもの自然体験活動の機会を増やす。また、参加者に自然公園の魅力を伝え、自然の営みや美しさ、生態系などこれからも守り続けていく大切さを理解し、自然環境への関心を高めることを目的とする。

2 実施概要

波戸岬海浜公園「波戸岬キャンプ場」(唐津市鎮西町波戸、名護屋、玄海国定自然公園内)で、公募により選定した県内に在住する子どもとその保護者(祖父母可)計 30 組を対象に以下の「パパママレンジャー予備校」及び「自然塾」を実施する。

事業名	日時	内容	施設 利用料
パパママ レンジャー 予備校	7月～自然塾開催日前まで に実施 ※日帰り、半日程度を予定	約 30 名 (各家族から 1 名程度) 4 家族 1 組で実習を行う 場所：ファイヤーサークル	無償
自然塾	8 月中に実施 ※1泊2日	家族単位 30 組 (2～5 名/1 家族、約 120 名) 場所：一般サイト、フリーサイト	有償

※施設「波戸岬キャンプ場」の予約は、委託者が行います。

(1) 「パパママレンジャー予備校」の企画・運営

保護者に対し、自然塾の前に、自然体験活動の基本的な技術や知識を学ぶ講習会等の実

受託から実施までのポイント

- ・ 広告代理店とキャンプ協会の役割分担を明確にする
- ※テント・タープ・マット・調理器具の手配は広告代理店、食材や薪の手配はキャンプ協会
- ・ 広告代理店の要望を尊重し、極力実現できるように取り計らう（No！と言わない）
- ・ 直接クライアントサイドと交渉しない（出しゃばらない！）

日帰り1回、1泊2日1回、延べ人数25人

委託料 ¥ 432,000（食材費・薪代込）

約25万円の収益。 翌年2019年度総会では、**繰越金192万円**となっている。

 佐賀県 と  snow peak 包括連携協定

- ・ 協定締結は佐賀県で20カ所目
- ・ 元官僚(総務省)山口知事の個人ルートで山井会長来佐
- ・ トップダウンで包括連携協定を締結
- ・ 年度内にもアウトドアイベント実施へ

代表取締役会長

後藤 健市



株式会社スノーピーク地方創生コンサルティング

Tokyo Office

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-8

神宮前タワービルディング23階

Tel.03-6455-5849 Fax.03-6805-7759

kenichi.goto@snowpeak.co.jp

Mobile. 090-8909-5556



佐賀県が推進する“オープンエア構想”

佐賀県 山口知事

- ・ 県東部エリアをアウトドアの聖地に
- ・ 様々なアウトドアが楽しめる新しい公園をめざします

snow peak 山井会長

- ・ キャンプ人口を増やし地域活性化

包括連携協定で何をするのか？

佐賀県が守り発信してきた歴史や、その歴史を紡いできた"自然"に焦点を当てることで、既存の価値の再活性を図ると共に、更なる魅力向上を目指す。

(1) 吉野ヶ里歴史公園での野遊びの共創

・自然と人、人と人、人と歴史をつなぐ、**野遊び**の共創。

(2) ワークーション、キャンピングオフィスの展開

・福岡や熊本など、主要都市からのアクセスを活かし"これからの働き方"へアプローチ。

(3) 佐賀の伝統産業との連携

・**伝統産業**の背景に必ずある"自然"との関わり方を再考することで、伝統産業の見せ方を変革。

(4) 防災意識醸成のための企画運営、助言等

・頻発する自然災害への備えとして、野遊びの知見を地域住民に提供。

- ①北海道銀行 (2016年2月)
- ②北海道帯広市 (2016年7月)
- ③愛知県豊田市 (2017年7月)
- ④北海道更別村 (2017年9月)
- ⑤大分県日田市 (2017年10月)
- ⑥熊本県熊本市 (2017年10月)
- ⑦北海道上川町／上川大雪酒造株式会社 (2018年4月)
- ⑧高知県 (2018年4月)
- ⑨茨城県つくば市 (2018年8月)
- ⑩新潟県十日町市 (2018年8月)
- ⑪新潟県新潟市 (2018年8月)
- ⑫長野県白馬村 (2019年1月)
- ⑬株式会社 YMFG ZONEプランニング (2019年6月)
- ⑭山口県下関市 (2019年9月)
- ⑮熊本県人吉市 (2020年2月)
- ⑯宮崎銀行 (2020年3月)
- ⑰関西学院大学 (2020年6月)
- ⑱九州旅客鉄道株式会社 (2020年10月)
- ⑲新潟県佐渡市 (2020年11月)

森川海はひとつ

佐賀の豊かな自然は、「人」が未来に繋がります

このウェブサイトは、佐賀県の豊かな“森・川・海”を守ろうと活動する
NPO・市民団体・個人・企業・行政を“つなぐ”サイトです。



森川海人くん

森川海人っ プロジェクト（佐賀県森林整備課）

2017年度スタート。2021年度は12,319千円の企画コンペがあり、佐賀広告センター（佐賀新聞社関連企業）が受託。

<事業概要>

森・川・海のつながりや管理の重要性、その保全活動などを推進することを目的としている。アプローチ方法として、「川の体験イベント」「森川海のワークショップ」などを行っている。

おわりに…

今回の話は、たまたま新聞社で働いている私がキャンプ協会に関わり、仕事で行っていたスキームが、利用できないかと思っただけのことです。

事業予算の獲得については、とっくの昔から取り組んでいる協会もあると思いますし、ほかにも好事例があると思います。

会員の中には、さまざまな職業の方がおられ、各方面で活躍されていることと思います。組織の力に加え、こうした個の力を結集して、日本キャンプ協会の将来を明るいものにできれば…と思います。

ご清聴ありがとうございました